

平成22年度第1回県立長野図書館協議会議事録

1 日 時 平成22年8月3日(火) 午後1時30分～3時30分

2 場 所 県立長野図書館 1階 視聴覚室

3 出席者

委員(五十音順) 石坂康子委員、小笠原憲子委員、鎌倉克仁委員、手塚英男委員
(欠席者:小林いせ子委員、仲平和夫委員)

県立長野図書館 倉石館長、多城次長兼総務課長、柳沢資料情報課長、宮沢情報係長
堀内係長、町田主幹、内山主幹、徳永主事

4 会議次第

- (1)開会
- (2)館長あいさつ
- (3)会長あいさつ
- (4)出席者紹介
- (5)協議
- (6)閉会

5 議事の概要

(1)資料説明

(2)意見交換

資料についての質問と「県民の期待に応えるためのより良い図書館づくりについて」意見交換。

手塚議長

図書館の未設置町村について、未設置の理由で多いのが財政上の問題ということと、関連して職員の専任化が困難という実情、また設置しても利用者が見込めないということが、設置に踏み込めない主な理由になると思うが、これに対して県立図書館のほうから指導・助言をしていることがあればお聞きしたい。

多城次長

図書館建設の計画がある町村へは助言等することはできるが、財政上の問題があるとか、人口が少なく効果が見込めないため難しいという町村に対しては、特に働きかけはしていない。財政上の問題というのはどうしようもない部分もある。

手塚議長

財政が厳しくても、図書館を設置して事業をしている過疎の村もあるので、そういう町村の状況が伝わっていけば図書館設置への理解も広がっていくのではないかと。

また総務省が、過疎債を活用した図書館の設置も認めているので、それに関する情報を県立図書館のほうで詳しく調べて、未設置町村へ助言してもらえればと思う。

多城次長

過疎債については、PR していかなければいけないと考える。

図書館を基点にして新しい町づくりに取り組んでいる町村もあるので、情報を流していきたい。

手塚議長

過疎の村では、過疎債は図書館にではなく、もっと別のことに使うものだから、それほど文化に親しむこともないだろうという誤解が、総務省にもあったかと思うが、今は時代も変わってきているので、ぜひお願いしたい。

倉石館長

過疎債の延長の関係で、未設置の村へ打診してみたが、他にもやりたいことがたくさんあり、また図書館を設置したあとの継続的な維持管理が大変だというお話をお聞きしたところである。

手塚議長

壁は厚いと思うが、図書館があることは村づくりや、住民が元気になるために大切なんだということが住民の間に広がれば、見方も違ってくるのではないか。

倉石館長

住民の考え方や意識が変わってこない、難しい面がある。

鎌倉委員

関連して、中学校図書館を地域開放しているということについて、詳しく教えていただきたい。

町田主幹

平成 17 ~ 18 年度に実施した事業で、図書館が未設置で県立高校もなく、かつ県立図書館が公民館文庫などの支援を行っていない町村を対象に、町村が希望する図書を県立図書館で購入をして、中学校図書館や公民館に配置することにより中学校の図書館等を開放して、住民の方に活用していただくというものである。

鎌倉委員

財政上の問題等で、地域に図書館を設置することが難しい場合には、学校には必ず図書館があるので、このように地域の方にも利用していただくという形も良いことだと思う。ただ、開放する時間帯や図書の購入費等、運営面での課題が出てくるという心配もあるが、これにより学校図書館がさらに充実するなど良い面もあるのではないかと感じた。

手塚議長

今説明のあった事業というのは、中学校図書館を地域開放と貸出の支援ということでしょうか。

多城次長

2 ヶ年だけの事業であったが希望をとり、県立図書館の図書を中学校の図書室に配架させていただき、地域の方にも開放して利用していただいた。

手塚議長

その2ヵ年というのはもう終了しているのか。

多城次長

終了してしまっている。2年間で配本した図書は引き続き設置されているが、新たな配本は予算の制約もあり、継続できない状況である。

手塚議長

引き続き配本を希望する声は出てこないか。

多城次長

利用状況を確認してみても、是非とも継続をという声は上がってきていない。

町田主幹

調査等をしているわけではないが、この事業は2年間で終わって新刊の配本等がないので、公民館文庫に切り替えると新刊の配本が可能であるという話はしているが、場所の確保等の問題もありなかなか進まない状況。

手塚議長

県立図書館から支援をして、公民館文庫に切り替えるという形にはつながっていないのか。

また、麻績村は、小学校図書館を地域開放とあるが・・・？

多城次長

麻績村は、学校図書室と図書室を兼ねており、地域の方に利用していただくという独自のシステムにより、積極的な取組みをいただいている。

手塚議長

小学校の中にある図書室が公共図書館も兼ねているということか。

多城次長

そのとおり。

手塚議長

蔵書数 24,000 冊というのは学校の図書室分の資料も含めているということでしょうか？

多城次長

そのとおり。

手塚議長

現在、条例化を研究中のところや、設置を検討中のところもあるが、財政上厳しいとか利用者がいないというところは、住民側からすれば図書館がなければ図書館体験をすることもできないし、図書館体験をすることがなければ、行政に要望を出すこともできないだろう。けれども図書館がなくても、公民館図書室をもっと充実させたり、学校図書館を地域に開放し住民に利用してもらうという形でも、図書館

体験はできる。そして住民側から行政に向けて、図書館に係る情報を出していくことが大切である。そんなことを大事にしていきたいと思う。

町村の図書館は、最初から立派なものでも良いのではと考える。

小笠原委員

「図書館概要」の利用状況の中で、平成20年度と21年度では、入館者数は増えているのに貸出数が減っているが、内訳を見ると児童図書の利用が減っている。これについて、やはり少子化が原因となるのか。

倉石館長

そのことについて分析したことはないが、おそらく長野市立図書館等周辺図書館が整備充実してきたこと、また少子化に伴い、それぞれの家庭で本が買える状況になってきていること等も要因ではないかと考えている。

小笠原委員

良い方向での減になっているのなら良いと思う。長野市には県立のほかに市立図書館もあるので、近くで借りているということもあるかもしれないが、児童図書の利用の減少が気になった。

手塚議長

この統計は、県立図書館のカウンターで直接貸出したものか？

柳沢課長

そのとおり。

手塚議長

インターネット予約事業による受取館での貸出しの665人と2,001冊を除いた分が、この館から直接貸出した分ということでしょうか。

柳沢課長

そのとおりで、この表の数字自体は、館からの貸出しの数字である。

倉石館長

平成19、20年度の児童図書の購入状況については、年間発行される児童図書の約3割程度しか、予算の関係で購入することができなかったことにより、貸出数は減少傾向にあったが、コーラル文庫の整備により21年度については約7割程度の購入となっている。そのため、22年度の貸出数は増えるのではないかと考えている。

手塚議長

ここの図書館から直接本を借りていく利用者の、地域的な分布というのはどんな様子か。

倉石館長

長野市がほとんどと考えられる。機会をみて統計を出してみたい。

手塚議長

登録者の住所等の統計があれば全県の利用者の状況がわかるので、ぜひ資料の中に加えていただきたい。

小笠原委員

図書館体験ができないと、図書館に対する要望も出せないということについて、図書館がない町村の場合などは、長野県庁等の見学のコースに県立図書館も入れてもらってはどうか。子どもたちは学校に図書館があるので体験できるにしても、公共の大きな図書館を体験するのも大事ではないかと思う。

多城次長

数は多くないが、見学にみえる学校もある。

手塚議長

長野市には大きな図書館があるのに、なぜ自分の町や村には図書館がないのかということになっていくのではないか。

小笠原委員

わからないことがあったら県立図書館に聞けばいいのかという、きっかけにもなると思う。

手塚議長

松本市に中央図書館が1館しかなかったときは、近くの学校の子どもたちの利用がほとんどで、遠くの学校の利用がなかったため、住民の間から分館を作ってほしいという声があがり、最初の分館を作ってからあちこちで分館を希望する運動が起きてきた。子どもたちが身近な分館で図書館体験ができたということが、親たちの間にこうした運動が広がっていったのだと思う。

松本では年間140万冊ほど本が貸出されており、そのうち10館ある分館での貸出が6割を超えている。松本市の分館くらいの規模でも、図書館が町村にあれば、図書館としての魅力は出てくるだろう。

石坂委員

松本市のほうが長野市よりも人口の規模が小さい気がするが、これだけ多くの図書館があるというのは、やはり予算が多くついているのか。松本市は近い範囲で分館がたくさんあると感じる。

手塚議長

分館をひとつ作ったら、あちこちで住民運動が起こったため、松本市で図書館分館整備計画をつくり松本市の基本計画に盛り込んだ。翌年から次第に整備が進み、8館（波田町が合併し現在は9館）になった。分館の利用者も多く、分館が増えると図書費も必要になるということは、市民の皆様にも図書館を通じて税金をお返ししているという形にもなっていると思う。

石坂委員

長野市の、例えば、平成17年頃にはまだ合併していなかったような地域では、学校の図書館を地域に開放しているところがあるのか。

倉石館長

信州新町では公民館文庫で対応していただいたが、昨年度合併にあたって図書が返却された。

町田主幹

鬼無里については、合併したとはいえ図書館の分館になったわけではなく、すぐに図書を引き上げてしまうのはどうかという要望があったため、しばらくは公民館文庫という形で利用していただいていたが、現在は返却作業を進めている。

手塚議長

市と合併したために図書館の未設置町村から外れたが、実態は変わっていないという現状もある。市としてもどれだけ全域的な図書館サービスをしていくか、またそのための条件をつくっていくかというような課題が出てくると思う。

倉石館長

私見であるが、自分の身近なところに、本を読めるスペースというか施設が必要だと思う。小学校や中学校では、少子化により空き教室が出てきている。そういう場所を図書館として活用できれば、より身近に利用してもらえるのではないかと考える。図書についても、市町村により規模は異なるが、ある一定の図書を購入し巡回していけば、それほど図書費をかけなくても効率的に本を読める仕組みができるのではと思っている。どうしても買えない本については、県立図書館が支援していくという仕組みみたいなものがあればいいと思う。

新たに図書館を建てるとなると、住民の理解もなかなか得られないし、お金もかなり大変なことである。

手塚議長

施設はどこの過疎村にもあるし、市町村の予算で新刊書を揃えなくても、県立から借りる等、調達する方法はいろいろあると思う。そう考えればそれほど難しいことではないように思えるが。

鎌倉委員

関連すると思うが、長和町の公民館図書室は、上小地域ネットに加入し相互利用しているとあるので、上小地域の図書館との貸し借りができるのだと思うが、こういうシステムが全県的に広がれば、本を借りるということがもっと自由にできるのではないか。

手塚議長

長和町の図書室は、児童館と隣保館と併設されており、児童館に来る子どもたちや隣保館を利用するお年寄りなども利用できるということで、とても良いと思う。実際に長和町の公民館図書室の本がどれだけ利用されているのかを調べて、町村に知らせていくというのも課題として出て来ると思う。

上小地域ネットというのは、図書館のある大きな市から、その近辺の図書館のない町村の利用を支えていくというしくみか。

倉石館長

上小の地域ネットは、地域に根ざした取組みであり、学校もつながっているようである。こういった取組みが県下に普及できてくれば、図書館を建てなくてもいいのではという気がしてくる。

また、利便性を考えると様々な利用施設との複合施設として設置するというのも、これから考えていく必要があるかと思う。

鎌倉委員

そういう意味では、上田の情報ライブラリーは素晴らしい施設で、いつ出かけても混んでいる状態。

手塚議長

確かに上田情報ライブラリーは大変居心地のよい施設である。

松本市の分館も、複合施設となっているところは、住民からすればとても利用しやすい施設になっている。

長和町の情報も、ひとつの方向性としてぜひ調べていただきたい。

広域ネットに関連して、上田のように大学や小・中学校が加わり、大きな広域ネットになる動きが松本でも出てきているが、長野県でももっとあちこちで広域ネットができれば、より多くの本が利用されるという事にもなるので、県立図書館でもひとつの課題として、取り組んでいってほしい。

他に、県立図書館についてご意見は。

なければ、これで終了させていただく。

6 閉 会